世界脳卒中デー・ライトアップ

記事

2026年
10月31日
（土）

# 神戸新聞 朝刊に掲載されました

## 世界脳卒中デーに合わせ
# 青色にライトアップ
### 江井島の大西脳神経外科が啓発

「世界脳卒中デー」の29日、大西脳神経外科病院（明石市大久保町江井島）の外壁が、シンボルカラーのインディゴブルーの光に照らされた。塩分・脂肪の取り過ぎや運動不足、酒の飲み過ぎなどが発症リスクを上げるとされ、同病院は「生活習慣を見直すことが予防に有効だ」と呼びかける。

同デーは世界脳卒中機構結成を記念して20年前に制定された。同病院は2年前からライトアップを実施。院内でも青のリボンを飾るなど啓発活動に取り組む。

同病院によると、国内では脳卒中で年間約10万人が死亡。まひなどの後遺症がある人も多く、寝たきりの大きな原因になっている。初期症状として顔のゆがみや言葉の障害、腕のまひなどが起こるため、違和感に気付いた場合はすぐに119番することが重要という。脳卒中の治療や後遺症、退院後の生活などについて誰でも気軽に相談できる窓口を設けている同病院。前田ゆうこ看護部長は「今後も脳卒中の予防や早期治療の大切さを伝え、地域の方々にとってより身近な病院にしていきたい」と話す。

同病院地域医療連携室☎078・938・1288

（新田欧介）



インディゴブルーにライトアップされた外壁＝明石市大久保町江井島